

## 清掃を通じ異文化交流

パース日本人学校勤務

六田 将司さん

＝富山県出身＝



オーストラリアの西端に位置する同国第4の都市パース。高層ビルの立ち並ぶ都市部から少し車で足を延ばすと、ライトブルーに輝く海が広がります。その街並みと自然の美しさから「世界で一番美しい街」とも呼ばれています。

現地の人たちは陽気でフレンドリーな人が多く、関わるたびに笑顔になります。バスの運転手さんも、お客さんと冗談を言ったり、お店のレジでも店員さんとお客さんが「ハウ・アー・ユー？」から始まって、そのまま世間話をしたり。「お客さまは神様」ではなく、「対等な関係」がとても心地よく感じられます。

私の勤務するパース日本人学校は、現地の公立小学校である

シティービーチ小学校内に昨年一度移転しました。子どもたちは日々異文化に接しながら生活しています。一年を通じてさまざまな行事を一緒に行ったり、各学年で週に数時間の合同授業を行ったりしています。

一緒に行っている活動の一つに清掃活動があります。日本の学校では、自分たちが使う校舎は自分たちが掃除するのが当たり前ですが、こちらにはそのような文化はありません。「校舎をリスpektしていて素晴らしい」という現地の先生や保護者の方の声から、一緒に清掃するようにになりました。

互いの文化をリスpektし、共に学ぶ関係をより一層深めていけたらと思います。

最後に、現在オーストラリアは、史上最悪の森林火災に見舞われ、大変多くの方が被災しています。人命のみならず何億もの動物の命が失われています。事態が早く収束することを願うばかりです。

（六田さんは1984年生まれ。三条市立裏館小学校に勤務し、2018年4月からパース日本人学校に勤務しています）



シティービーチ小学  
校との清掃の様子

# 世界の国から

at 台湾

## 優しい笑顔 親日家多く

元台北日本人学校勤務

井口 昭夫さん

＝新潟市西蒲区在住＝



昨年の3月に台北日本人学校の勤務を終え、帰国しました。2年ぶりの新潟です。台湾で一番の思い出は、おいしい中華でも、史跡でもありません。それは「人」です。台湾には「日本人と変わらない人たち」がいたのです。

台湾はかつて50年ほど日本の統治下にありました。そこでは、日本の教育が行われ、現在も使われているインフラが整備されました。今の85歳くらいのおじいちゃん、おばあちゃんは、とてもきれいな日本語を話します。

私の家内は玉蘭荘という日本語を話せる人たちが集まるサロンのボランティアをしています。そこでは、まるで日本のように日本語が飛び交い、日本の話に花が咲いています。台湾の人は、みんな日本が大好きです。日本人にとっても親切です。街を歩くと、すぐ実感がきます。

日本からの旅人の多くが、台湾の方の温かさに触れた経験をしています。

東日本大震災の時に、台湾がどこの国よりも多くの義援金を送ってくれたのは周知の事実です。「九份」や「小籠包」、「台北101」（台湾で一番高いビル）も素晴らしいですが、今思い起こすと、まぶたに浮かんでくるのは助けてもらったり、親切にしてもらったりした台湾の人たちの優しい笑顔です。

台湾での1番の思い出は台湾の方々と過ごした思い出です。今度、新潟空港と台湾が格安航空でつながります。多くの方に台湾の、そして台湾の人の素晴らしさを知っていただきたいと思っています。

（井口さんは1961年生まれ。現在は新潟市鏡郷小に勤務しています）



大みそかに「台北101」から見た花火